

Showa Denki Group

2019 Round.4 Tsukuba Circuit



J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Information 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第4戦 in 筑波

開催日：2019年6月22日(公式予選・RACE 1) 6月23日(RACE 2)
茨城県・筑波サーキット (1周 2.070km)
観客動員数：7,500人 (2日間合計)

J-GP2クラス #71 榎戸育寛

マシン：HARC-PRO. HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE

予選 RACE 1：3番手 (タイム：57秒 425)
RACE 2：3番手 (タイム：57秒 610)

決勝 RACE 1：優勝 RACE 2：3位

ST600クラス #71 上原大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE

予選 RACE 1：18番手 (タイム：59秒 134)
RACE 2：22番手 (タイム：59秒 290)

決勝 RACE 1：DNF RACE 2：27位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP

予選 RACE 1：19番手 (タイム：1分 06秒 748)
RACE 2：18番手 (タイム：1分 06秒 846)

決勝 RACE 1：20位 (国際クラス：11位) RACE 2：17位 (国際クラス：10位)



弊社広報社員ライダー

J-GP2クラス #634 名越 哲平 (写真中央)
J-GP2クラス #71 榎戸 育寛 (写真右)
ST600クラス #71 上原 大輝 (写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



弊社社員ライダーの名越哲平が第4戦も優勝しランキング1位
■名越 哲平 J-GP2 class 第4戦 筑波サーキット レース結果
予選 Race1:1位 /Race2:1位 決勝 Race1:2位 /Race2:1位



昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクشنナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



【71Project Riders】

■JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda

■ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki

■J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido

■JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama

■J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita

■JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round.4 Tsukuba Circuit

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama

Mistresa RT
SOG HARC-PRO

榎戸育寛が今シーズン初優勝を達成！



全日本ロードレース選手権 2019年シーズン前半戦の最後となる第4戦筑波が開催された。筑波サーキットは、1周約2kmしかないタイトなコース。ラップタイムは、1分前後と、まさに休む間もなく集中力が要求される。今回は、JSB1000クラスを除く3クラスとMFJ CUP JP250が2レース制で行われた。



レースウィークの降水確率は高く、雨マークのついた天気予報が多かったが、初日となった金曜日は、ほぼドライコンディションで走ることができ SDG

Mistresa RT HARC-PRO. の J-GP2 榎戸、ST600 上原、JP250 赤間は、マシンセットに勤しんだ。榎戸は、ホームコースとも言える筑波サーキットで事前テストから調子を上げてきていた。金曜日は、真っ先に57秒台に入れ2番手につけていた。一方、上原は、ライディングスタイルの改善に取り組んでおり、徐々に形になってきていたが、ラップタイムが上がって来ると、以前のスタイルに戻ってしまうときがあり、まだまだ課題が残っていた。しかも激戦クラスの ST600 のグリッドはエントリー 41台に対して30台。まずは、確実に予選を通るタイムを出さなければならなかった。上原は、初日は59秒277をマークし18番手につけた。JP250の赤間は筑波を攻めあぐね1分07秒331で21番手となっていた。

公式予選とレース1が行われた土曜日は、ドライコンディションで予選は進んで行く。榎戸は、いつ雨が降ってもおかしくない天気のため、セッション序盤に一度アタックし、後半に、もう一度アタックする予定だったが、セッション中盤に転倒を喫してしまう。不完全な予選となってしまったが、レース1、レース2共に3番手グリッドを確保した。上原が走ったB組の予選中に雨が降ってきた

ため、ST600クラスの予選は、組アタマ取りとなり、上原はレース1が18番手、レース2が22番手となる。赤間は自己ベストを更新する走りを見せレース1が19番手、レース2が18番手グリッドからスタートすることになる。



J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido

レイコンディションとなったレース1。フロントロウ3番手グリッドの榎戸は、好スタートを決めホールショットを奪いトップに立つとレースをリード。これに名越哲平が続き、昭和電機広報社員が1-2体制を築く。レース中盤には、榎戸が名越を引き離し独走体制に入ると、そのままチェッカーフラッグを受け、うれしい移籍初優勝を飾った。ドライコンディションとなったレース2は、名越が独走優勝。榎戸は、2位争いを繰り広げるが、惜しくも3位。



ST600 #71 Daiki Uehara

ST600クラスの上原は、レース1では、オープニングラップのアジアコーナーで他車に追突され転倒。左手の小指を削るケガを負ってしまうが、レース2も出走。ポイント圏内を走っていたが、3周目辺りから左側のハンドルがイン側に入ってしまう、特に左コーナーが思うように走れない状態になってしまう。それでも混戦の中でポジションを確認しながら何とか周回を重ねるが、第1ヘアピンでハイサイドで転倒しそうなため一度ピットインし、ハンドルを修復。大きく遅れてしまうが、27位で完走を果たした。

JP250クラスのレース1は、ウォームアップで転倒者がありスタートディレイ。1周減算の11周で争われることになる。赤間は、スタートでやや出遅れるが、徐々にポジションを回復。さらに前を狙っていたが、8周目に転倒があり赤旗が提示され7周終了時で成立となる。レース2は、予定通り12周で争われ18位でゴールした。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

■榎戸育寛コメント

「ホームコースの筑波ということで、バイクとタイヤの理解度を高めることができました。事前テストからマシンをアジャストし、予選での転倒は余計でしたが、レース1では、スタートからトップに出て優勝することができました。レース2は、2位になりたかったのですが仕方がありません。優勝の報告をできることは、すごくうれしいです。これも支えてくださったチーム、昭和電機の皆さんのおかげです。後半戦も全部勝つつもりで臨みます」

■上原大輝コメント

「レース1、レース2と共に運に見放されてしまった感じです。悔しいですし、申し訳ない気持ちでいっぱいです。予選までは、今、課題となっているライディングスタイルの改善を行いなから、ステップを踏むことができていたと思います。まだまだ足りない部分が多くあるので、シーズン後半戦で巻き返せるように、しっかり準備したいと思っています」

■赤間 清コメント

「筑波は単純なようで、すごく奥が深いコースなので、なかなかタイムを詰めることができなかったのですが、予選で自己ベストを更新することができました。セカンドタイムでレース2のグリッドが決まるので、2周はベストに近いタイムを記録しなくては、いけない状況で、ますますのタイムを出すことができました。レース1は、前を追っていたところで赤旗となってしまいました。レース2では、バトルをしながら順位を上げて行けたので、いい手応えがありました。この経験を次戦に活かしたいですね」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで